10人の議員が一般質問

【問】の記事は質問した議員が作成しています。

地域防災力の強化で災害に強いまちづくりを

雪本　清浩 議員

【問】近年、国内の至る所で大きな地震が発生し、本市においても東南海・南海地震が高い確率で発生することが予想されている。災害に備えて防災体制の確立が急がれるが、現状は十分とは言えない。

早急に地域の防災力を高めるためにモデル地区を設定し、行政と地域でマニュアルや訓練内容を充実させ、それらを市内全域に波及させる方法が最も有効と考えるがどうか。

【答】各地域で自主防災会のような組織があれば、防災リーダーの育成に役立ち、地域が災害に対して強くなると考える。地域の団体に対し働きかけ、自主的な防災組織を立ち上げるきっかけ作りができないか検討している。

自主防災会のなかには熱心な防災リーダーのもと、避難訓練の実施や要援護者の安否確認の体制づくり、防災研修会の開催などに取り組んでいるところもある。そのような団体をモデルとして活動内容や訓練方法を紹介することは、他の団体や地区市民協議会などに役立つと考える。

また、防災組織のない地域には組織作りのきっかけになると思われ、さらに市全体に波及する可能性もあり、有効と考える。

地域で取り組む防災訓練

積極的な予防で財政負担の軽減を

友永　修 議員

【問】他市では現状の特定健診にクレアチニン検査を追加し、腎臓のろ過値を示すことで生活改善に取り組む市民が増え、人工透析が必要な人が減った例がある。

本市でも国民健康保険の財政負担を軽減するため導入してはと考えるがどうか。

【答】検査の追加には関係機関との調整や財源が必要だが、医療費の抑制が期待できるため検討していく。

【問】少子化による生徒の減少や指導者不足のため、各中学校で運動部の活動状況が違う。活性化を図るため、どのような支援をしているか聞きたい。

【答】指導にあたる顧問どうしが練習方法を共有したり、生徒たちが練習試合をするなど、活動を充実させている。また、地域の人や保護者にも指導、協力してもらっている。

今後、教育活動の一環としての部活動が、各学校においてより充実するよう支援していく。

市民ぼうさいまちづくり学校

【問】災害についての知識や技術を持ち、地域防災の中核となる「防災士」を育成すべきと考えるがどうか。

【答】災害時の初動対応や救命の技術・知識が習得できる「市民ぼうさいまちづくり学校」をさらに充実させ、防災士に限らず防災リーダーの育成に努める。

春木中学校グラウンド一刻も早い正常化を

稲田　悦治 議員

【問】春木中学校のＰＴＡ役員が市長と面談し、即座に芝生化する以前の土のグラウンドに戻して欲しい旨を訴えた。

その後、実質３日、４日間ほどであったにも関わらずＰＴＡの働きかけにより、保護者や生徒、地域の人たちの切実な思いのこもった５５９７名にも上る署名が集まり、市長に手渡した。

しかし、教育委員会は自らの責任を果たすことなく、その責任を転嫁し、ＰＴＡ臨時総会において、解決の方向を決定して欲しいとのことであった。その決定内容に沿って改善するのかどうか聞きたい。

【答】教育委員会としては、教育活動に支障があれば、是正する責任がある。そこで関係者から話を聞き、支障は取り除かれたと評価していた。

しかし、グラウンドをすべて土に戻すべきであるという意見が出てきたため、ＰＴＡ臨時総会において、今後のグラウンドの方向性を決めてもらうこととした。ＰＴＡの総意で決まった方向性については、学校はもちろん、保護者からも知恵や協力を得ながら、教育委員会もその実現に向け、取り組んでいきたい。

魅力ある観光ルートで集客力のアップを

米田　貴志 議員

【問】「カーネーション」効果で城周辺に観光客が集中しているが、今後、山手にもどのように観光ルートを広げるのか聞きたい。

【答】個々の観光資源では、集客やにぎわいづくりが難しいと考える。春の観光シーズンをめどに、観光スポットや風物百選、歴史・文化財、自然・風景などを組み合わせた新たな観光ルートを示せるよう、観光振興協会などと課題の整理を含め、協議していく。

【問】観光客が大幅に増加している。ボランティアガイドがより安全・スムーズに案内できるよう、サポートが必要と考えるがどうか。

【答】案内中の安全面や問題点などをボランティアガイドと協議しながら、またガイド数の拡充と人材育成についても観光振興協会などとサポートしていく。

【問】本市の多種多様な観光資源を活用した観光スポットの発掘やアピールができないか聞きたい。

【答】岸和田の魅力をきちんと発信するため、市内のどの地域に、どのような観光スポットが存在するのか一目で分かる観光資源図の作成を検討していく。

また、地域の昔話などを題材に活動している人たちと観光イベントで連携できればと考えている。

義犬伝説が残る捕鳥部万の墓

議員研修会に参加

11月18日、大阪府市議会議長会主催の議員研修会に参加しました。同研修会は毎年、有識者などを招き行われ、今年は、中央大学大学院教授の佐々木信夫氏を講師に、「地方議会は変われるか」をテーマに開催されました。

議会のあり方、議会改革の内容についての活発な質問の後、終了しました。

先進事例調査のため11月に行政視察を実施

◆総務常任委員会

☆伊東市での視察内容「防災対策」

伊東市では、発生が予想される東海地震などに対して、防災に取り組んでいる。

市民に災害情報を素早く伝えるため、屋外スピーカーや戸別受信機による無線放送など、多様な広報手段を確保している。

また、自主防災組織へ資機材の支給や、防災訓練の助成金を交付するなど、地域防災への支援を行っている。

津波対策では、一時避難のため、民間のビルを避難ビルに指定するほか、海抜表示板などの設置、啓発冊子の全戸配布、避難訓練なども積極的に実施している。

☆沼津市での視察内容「防災対策」

沼津市では、静岡県内で最大の津波被害を受けることを想定しており、津波対策に重点を置いている。

防波堤が整備されていない地域には、高台にすぐ避難できるよう避難経路や、山の斜面を切り崩した避難地を整備している。

また、高台が近くにない地域には、避難タワーを設置しているほか、避難ビルも指定している。このほか、海抜表示板や避難誘導看板も数多く設置し、避難訓練も頻繁に実施している。

◆文教民生常任委員会

☆知立市での視察内容「中学校給食」

知立市では、老朽化した給食センターを改築し、平成21年9月に運営を始めた。

特徴としては、衛生管理とアレルギー対応が挙げられる。食材の洗浄・調理・配ぜんなどの行程ごとにセンター内に専門室を設け、衛生管理を徹底している。

アレルギー対応については、センター内に除去食を調理する専用室を設置している。また、医師の意見を参考に保護者と面談しながら、生徒それぞれのアレルギーに対応した給食を提供している。

☆三島市での視察内容「中学校給食」

三島市では、14年2月に中学校7校のうち3校に調理場を建設し、すべての中学校で給食を同時に開始した。

伝統的な日本の食生活や食文化への親しみや関心を深めてもらうため、全国に先駆けて完全米飯給食に取り組んでいる。

現在、生徒の要望もあり、月に1度パン・麺類を給食に取り入れている。

また、地場産品の導入も進めており、22年度の地場産の食材使用率は、文部科学省の目標値30％を超える35％である。

＜傍聴の案内＞傍聴される方は、会議当日、市役所新館３階の議会事務局受付までお越しください。